

# 日本思想史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
日本思想史特論Ⅰ	「学校」の思想史	2	引野 亨輔	前期 火曜日 4講時
日本思想史特論Ⅱ	異界と他界の日本思想史	2	引野 亨輔	後期 火曜日 4講時
日本思想史特論Ⅲ	「学校」の思想史	2	引野 亨輔	前期 火曜日 4講時
日本思想史特論Ⅳ	異界と他界の日本思想史	2	引野 亨輔	後期 火曜日 4講時
日本文化思想史特論Ⅰ	水平社・西光万吉論Ⅰ	2	片岡 龍	前期 月曜日 3講時
日本文化思想史特論Ⅱ	水平社・西光万吉論Ⅰ	2	片岡 龍	前期 月曜日 3講時
日本比較思想史特論Ⅰ	水平社・西光万吉論Ⅱ	2	片岡 龍	後期 月曜日 3講時
日本比較思想史特論Ⅱ	水平社・西光万吉論Ⅱ	2	片岡 龍	後期 月曜日 3講時
日本思想史総合演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔.片岡 龍	前期 水曜日 4講時
日本思想史総合演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	片岡 龍.引野 亨輔	後期 水曜日 4講時
日本思想史総合演習Ⅲ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔.片岡 龍	前期 水曜日 4講時
日本思想史総合演習Ⅳ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	片岡 龍.引野 亨輔	後期 水曜日 4講時
日本思想史研究演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	片岡 龍.引野 亨輔	前期 水曜日 5講時
日本思想史研究演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔.片岡 龍	後期 水曜日 5講時
日本思想史研究演習Ⅲ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	片岡 龍.引野 亨輔	前期 水曜日 5講時
日本思想史研究演習Ⅳ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	片岡 龍.引野 亨輔	後期 水曜日 5講時

科目名：日本思想史特論 I / History of Japanese Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM12401, 科目ナンバリング：LJS-PHI601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「学校」の思想史

2. Course Title (授業題目)：History of Thought Regarding Schools

3. 授業の目的と概要：現代人にとって、学校で学ぶことはあまりに当たり前の行為と化している。しかし、一人の教師が教壇に立ち、多数の学生に対して講義を行うことは、日本ではせいぜい明治時代になってから一般化した教育スタイルに過ぎない。また、学生個々の達成度を測るため、学期末に行われる試験も、前近代の日本社会では決して一般的ではなかった。本授業では、受講生たちに教育社会史の論文を精読させ、学校で学ぶという行為の意味を深く考察してもらおう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：For modern people, learning at school has become a completely normal activity. However, having one teacher stand at the podium and give lectures to a large number of students is only an educational style that became common in Japan during the Meiji period. Additionally, exams held at the end of each semester to measure each student's level of achievement were by no means common in pre-modern Japanese society. In this course, students will be asked to carefully read papers on the social history of education and deeply consider the meaning of the learning at school.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、学校という場において生じた歴史的な変遷を正しく理解し、その意義を多角的に評価できるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to correctly understand the historical changes that have occurred in schools, and to be able to evaluate their significance from multiple perspectives.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 ガイダンスー「学校」を思想史的に考えるー

第 2 回 学校と卓越化の欲望 (近世編)ー前田勉『江戸の読書会』を読む①ー

第 3 回 学校と画一性・多様性 (近世編)ー前田勉『江戸の読書会』を読む②ー

第 4 回 学校と卓越化の欲望 (近代編)ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む①ー

第 5 回 学校と画一性・多様性 (近代編)ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む②ー

第 6 回 学校と知識人 (近世編)ー渡辺浩『東アジアの王権と思想』を読むー

第 7 回 学校と知識人 (近代編)ー荻部直『移りゆく「教養」』を読むー

第 8 回 学校のなかの道具 (近世編①)ー青木美智男『日本文化の原型』を読むー

第 9 回 学校のなかの道具 (近世編②)ー鈴木俊幸『江戸の読書熱』を読むー

第 10 回 学校のなかの道具 (近代編①)ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む①ー

第 11 回 学校のなかの道具 (近代編②)ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む②ー

第 12 回 学校のなかの道具 (近代編③)ー佐藤卓己『テレビの教養』を読むー

第 13 回 学校のなかの自主と規律 (近世編)ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む①ー

第 14 回 学校のなかの自主と規律 (近代編)ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む②ー

第 15 回 まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

使用する論文については、授業中に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：全受講生は、授業ごとに指定する課題論文を事前に精読し、ミニットペーパーを提出すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅱ／ History of Japanese Thought (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM22403, 科目ナンバリング：LJS-PHI602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：異界と他界の日本思想史

2. Course Title (授業題目)：History of Japanese Thought Regarding Another Worlds and Afterlife

3. 授業の目的と概要：現代人にとって「異世界」といえば、もっぱら漫画やアニメの重要素材とみなされるようになっているが、かつて異界（異空間）や他界（死後世界）が日本思想の形成に大きな影響を与えてきたことは間違いない。もともと、『日本書紀』に描かれる黄泉の国と、中世の仏教僧が語る極楽浄土とでは、同じ他界といっても、それらの性格は大きく異なる。日本人にとっての異界や他界は、歴史の流れのなかで、どのように変容していったのだろうか。本授業では、古代・中世の仏教説話を素材として、異界/他界観の変容を探り、さらにその歴史的な背景を検討してみ

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：For modern Japanese people, another worlds are mainly seen as important materials for manga and anime, but there is no doubt that in the past, another worlds and the afterlife have had a great influence on the formation of Japanese thought. However, even though the land of Yomi described in the Nihon Shoki (Chronicle of Japan completed in 720) and the Pure Land described by medieval Buddhist monks are the same afterlife, their characteristics are very different. How have another worlds and afterlife changed over the course of history for the Japanese people? In this course, we will use ancient and medieval Buddhist tales as material to explore the transformation of the idea of another worlds and afterlife, and further examine its historical background.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、古代・中世の仏教説話を正確に読み解き、日本人の心性とその変遷について考察できるようにすることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to be able to accurately read ancient and medieval Buddhist tales and consider the Japanese mentality and its changes.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス—日本思想史における生と死—

第 2 回：黄泉国の確立—『古事記』を読む①—

第 3 回：生者と死者の距離—『日本霊異記』を読む①—

第 4 回：仏教伝来と異界/他界の変容—『日本霊異記』を読む②—

第 5 回：肉体と魂の分離—『日本霊異記』を読む③—

第 6 回：富をもたらす異界—『古事記』を読む②—

第 7 回：病をもたらす異界—「備後国風土記逸文」を読む—

第 8 回：遠ざかる極楽浄土—『沙石集』を読む—

第 9 回：浄土を渴仰する人々—『発心集』を読む—

第 10 回：抜け出し得ぬ地獄—『今昔物語集』を読む①—

第 11 回：救済者としての地蔵菩薩—『今昔物語集』を読む②—

第 12 回：山中で死者に出会う—『今昔物語集』を読む③—

第 13 回：自宅に死者を招く—『伽婢子』を読む—

第 14 回：再び接近する現世と異界/他界—『霊の真柱』を読む—

第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、1 人 1 回ずつ担当する学生発表 60%、各授業中に行う史料読解力チェック 20%、ミニットペーパー 20% の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

課題史料は、授業ごとにコピーを配付する。

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。

授業ごとに指定する課題史料は、受講生全員が事前に精読しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅲ／ History of Japanese Thought (Advanced Lecture) III

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM12402, 科目ナンバリング：LJS-PHI609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「学校」の思想史

2. Course Title (授業題目)：History of Thought Regarding Schools

3. 授業の目的と概要：現代人にとって、学校で学ぶことはあまりに当たり前の行為と化している。しかし、一人の教師が教壇に立ち、多数の学生に対して講義を行うことは、日本ではせいぜい明治時代になってから一般化した教育スタイルに過ぎない。また、学生個々の達成度を測るため、学期末に行われる試験も、前近代の日本社会では決して一般的ではなかった。本授業では、受講生たちに教育社会史の論文を精読させ、学校で学ぶという行為の意味を深く考察してもらおう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：For modern people, learning at school has become a completely normal activity. However, having one teacher stand at the podium and give lectures to a large number of students is only an educational style that became common in Japan during the Meiji period. Additionally, exams held at the end of each semester to measure each student's level of achievement were by no means common in pre-modern Japanese society. In this course, students will be asked to carefully read papers on the social history of education and deeply consider the meaning of the learning at school.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、学校という場において生じた歴史的な変遷を正しく理解し、その意義を多角的に評価できるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to correctly understand the historical changes that have occurred in schools, and to be able to evaluate their significance from multiple perspectives.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 ガイダンスー「学校」を思想史的に考えるー

第 2 回 学校と卓越化の欲望 (近世編)ー前田勉『江戸の読書会』を読む①ー

第 3 回 学校と画一性・多様性 (近世編)ー前田勉『江戸の読書会』を読む②ー

第 4 回 学校と卓越化の欲望 (近代編)ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む①ー

第 5 回 学校と画一性・多様性 (近代編)ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む②ー

第 6 回 学校と知識人 (近世編)ー渡辺浩『東アジアの王権と思想』を読むー

第 7 回 学校と知識人 (近代編)ー荻部直『移りゆく「教養」』を読むー

第 8 回 学校のなかの道具 (近世編①)ー青木美智男『日本文化の原型』を読むー

第 9 回 学校のなかの道具 (近世編②)ー鈴木俊幸『江戸の読書熱』を読むー

第 10 回 学校のなかの道具 (近代編①)ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む①ー

第 11 回 学校のなかの道具 (近代編②)ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む②ー

第 12 回 学校のなかの道具 (近代編③)ー佐藤卓己『テレビの教養』を読むー

第 13 回 学校のなかの自主と規律 (近世編)ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む①ー

第 14 回 学校のなかの自主と規律 (近代編)ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む②ー

第 15 回 まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

使用する論文については、授業中に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：全受講生は、授業ごとに指定する課題論文を事前に精読し、ミニットペーパーを提出すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅳ／ History of Japanese Thought (Advanced Lecture) IV

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM22404, 科目ナンバリング：LJS-PHI610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：異界と他界の日本思想史

2. Course Title (授業題目)：History of Japanese Thought Regarding Another Worlds and Afterlife

3. 授業の目的と概要：現代人にとって「異世界」といえば、もっぱら漫画やアニメの重要素材とみなされるようになっているが、かつて異界（異空間）や他界（死後世界）が日本思想の形成に大きな影響を与えてきたことは間違いない。もともと、『日本書紀』に描かれる黄泉の国と、中世の仏教僧が語る極楽浄土とでは、同じ他界といっても、それらの性格は大きく異なる。日本人にとっての異界や他界は、歴史の流れのなかで、どのように変容していったのだろうか。本授業では、古代・中世の仏教説話を素材として、異界/他界観の変容を探り、さらにその歴史的な背景を検討してみ

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：For modern Japanese people, another worlds are mainly seen as important materials for manga and anime, but there is no doubt that in the past, another worlds and the afterlife have had a great influence on the formation of Japanese thought. However, even though the land of Yomi described in the Nihon Shoki (Chronicle of Japan completed in 720) and the Pure Land described by medieval Buddhist monks are the same afterlife, their characteristics are very different. How have another worlds and afterlife changed over the course of history for the Japanese people? In this course, we will use ancient and medieval Buddhist tales as material to explore the transformation of the idea of another worlds and afterlife, and further examine its historical background.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、古代・中世の仏教説話を正確に読み解き、日本人の心性とその変遷について考察できるようにすることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to be able to accurately read ancient and medieval Buddhist tales and consider the Japanese mentality and its changes.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス—日本思想史における生と死—

第2回：黄泉国の確立—『古事記』を読む①—

第3回：生者と死者の距離—『日本霊異記』を読む①—

第4回：仏教伝来と異界/他界の変容—『日本霊異記』を読む②—

第5回：肉体と魂の分離—『日本霊異記』を読む③—

第6回：富をもたらす異界—『古事記』を読む②—

第7回：病をもたらす異界—『備後国風土記逸文』を読む—

第8回：遠ざかる極楽浄土—『沙石集』を読む—

第9回：浄土を渴仰する人々—『発心集』を読む—

第10回：抜け出し得ぬ地獄—『今昔物語集』を読む①—

第11回：救済者としての地蔵菩薩—『今昔物語集』を読む②—

第12回：山中で死者に出会う—『今昔物語集』を読む③—

第13回：自宅に死者を招く—『伽婢子』を読む—

第14回：再び接近する現世と異界/他界—『霊の真柱』を読む—

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、1人1回ずつ担当する学生発表 60%、各授業中に行う史料読解力チェック 20%、ミニットペーパー20%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

課題史料は、授業ごとにコピーを配付する。

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。

授業ごとに指定する課題史料は、受講生全員が事前に精読しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本文化思想史特論 I / History of Japanese Culture Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM11301, 科目ナンバリング：LJS-PHI604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論 I
2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi I
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉集』からセレクト）と研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『西光万吉集』) and research papers.
5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：水平社・西光万吉について

第3回：映画『橋のない川』から

第4回：よき日のために（水平社創立趣意書）

第5回：人間は尊敬すべきものだ

第6回：業報にあえぐ 一大谷尊由氏の所論について。特に水平運動の誤解者へー

第7回：水平社が生まれるまで

第8回：農民運動の思い出

第9回：神に聴く政治運動 1 ヴィヴェカナンダとガンジーの場合

第10回：神に聴く政治運動 2 ガンジーとネールの場合

第11回：偶感雑記一九月二十八日夜よりー

第12回：不戦日本の「国際和栄政策」について

第13回：講演・人権の日に

第14回：略歴と感想、夫・西光の思い出、西光と和栄運動

第15回：住井すゑから

※第4～14回のテキストは、『西光万吉集』（解放出版社、1990）からの例示

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本文化思想史特論Ⅱ／ History of Japanese Culture Thought (Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM11302, 科目ナンバリング：LJS-PHI613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論 I
2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi I
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉集』からセレクト）と研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『西光万吉集』) and research papers.
5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：水平社・西光万吉について

第3回：映画『橋のない川』から

第4回：よき日のために（水平社創立趣意書）

第5回：人間は尊敬すべきものだ

第6回：業報にあえぐ 一大谷尊由氏の所論について。特に水平運動の誤解者へー

第7回：水平社が生まれるまで

第8回：農民運動の思い出

第9回：神に聴く政治運動1 ヴィヴェカナンダとガンジーの場合

第10回：神に聴く政治運動2 ガンジーとネールの場合

第11回：偶感雑記一九月二十八日夜よりー

第12回：不戦日本の「国際和栄政策」について

第13回：講演・人権の日に

第14回：略歴と感想、夫・西光の思い出、西光と和栄運動

第15回：住井すゑから

※第4～14回のテキストは、『西光万吉集』（解放出版社、1990）からの例示

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本比較思想史特論 I / Comparative history of Japanese thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM21301, 科目ナンバリング：LJS-PHI603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論 II

2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi II

3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉著作集』第 3, 4 巻からセレクト）と研究論文（加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後』所収など）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (from 『西光万吉著作集』第 3, 4 巻) and research papers (published in 加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後』).

5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、課題設定など）を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：映画『橋のない川』（1969）から

第 3 回：和栄政策の起点（加藤書第 1 章）

第 4 回：平和省の提案と「和栄政策」の具体化（第 2 章）

第 5 回：社会党の平和政策としての「和栄政策」（第 3 章）

第 6 回：敬遠される和栄政策と支持される和栄政策（第 4 章）

第 7 回：「低開発国にたいする国際協力策」として（第 5 章）

第 8 回：西光万吉の最後の仕事-「老人の童話」について（第 6 章）

第 9 回：孔子の「夢」を思う（西光著作集第 2 巻）

第 10 回：戦時下雑感（第 2 巻）

第 11 回：不戦日本の自衛、再び不戦日本の自衛について（第 3 巻）

第 12 回：三たび不戦日本の自衛について、四たび不戦日本の自衛について（第 3 巻）

第 13 回：明治維新の百年記念と昭和維新のトンヤレ節（『西光万吉著作集』第 4 巻）

第 14 回：歳暮漫談・人道と科学＝続く理想と現実の悲喜劇（第 4 巻）

第 15 回：住井すゑから

※第 3～8 回の論文は、加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後：非暴力政策を掲げつづけて』（明石書店、2007）からの例示。第 9～14 回のテキストは、加藤昌彦『西光万吉著作集』第 2～4 巻（涛書房、1972～1974）からの例示。

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト/論文）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本比較思想史特論Ⅱ／Comparative history of Japanese thought(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM21302, 科目ナンバリング：LJS-PHI611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi Ⅱ
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉著作集』第3、4巻からセレクト）と研究論文（加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後』所収など）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (from 『西光万吉著作集』第3、4巻) and reserch papaers ( published in 加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後』) .
5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、課題設定など）を身に着ける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：映画『橋のない川』（1969）から

第3回：和栄政策の起点（加藤書第1章）

第4回：平和省の提案と「和栄政策」の具体化（第2章）

第5回：社会党の平和政策としての「和栄政策」（第3章）

第6回：敬遠される和栄政策と支持される和栄政策（第4章）

第7回：「低开発国にたいする国際協力策」として（第5章）

第8回：西光万吉の最後の仕事-「老人の童話」について（第6章）

第9回：孔子の「夢」を思う（西光著作集第2巻）

第10回：戦時下雑感（第2巻）

第11回：不戦日本の自衛、再び不戦日本の自衛について（第3巻）

第12回：三たび不戦日本の自衛について、四たび不戦日本の自衛について（第3巻）

第13回：明治維新の百年記念と昭和維新のトンヤレ節（『西光万吉著作集』第4巻）

第14回：歳暮漫談・人道と科学＝続く理想と現実の悲喜劇（第4巻）

第15回：住井すゑから

※第3～8回の論文は、加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後：非暴力政策を掲げつづけて』（明石書店、2007）からの例示。第9～14回のテキストは、加藤昌彦『西光万吉著作集』第2～4巻（涛書房、1972～1974）からの例示。

定期試験：なし

#### 8. 成績評価方法：

平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

#### 9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト/論文）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

#### 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

#### 12. その他：

科目名：日本思想史総合演習 I / History of Japanese Thought(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔・片岡 龍

コード：LM13402, 科目ナンバリング：LJS-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅱ／History of Japanese Thought(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23403, 科目ナンバリング：LJS-PHI606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅲ／ History of Japanese Thought(Integration Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔・片岡 龍

コード：LM13403, 科目ナンバリング：LJS-PHI615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点 (出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文) [100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ペリかん社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅳ／ History of Japanese Thought(Integration Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23404, 科目ナンバリング：LJS-PHI616J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史研究演習 I / History of Japanese Thought (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM13503, 科目ナンバリング：LJS-PHI607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I
2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I
3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report.
5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1、ガイダンス
  - 2、研究発表 1
  - 3、研究発表 2
  - 4、研究発表 3
  - 5、研究発表 4
  - 6、研究発表 5
  - 7、研究発表 6
  - 8、研究発表 7
  - 9、研究発表 8
  - 10、研究発表 9
  - 11、研究発表 10
  - 12、研究発表 11
  - 13、研究発表 12
  - 14、研究発表 13
  - 15、研究発表 14
8. 成績評価方法：

平常点 (出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文) [100%]
9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』  
荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』  
『日本思想史辞典』(ペリかん社) ほか
10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅱ／History of Japanese Thought(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔・片岡 龍

コード：LM23503, 科目ナンバリング：LJS-PHI608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅲ／ History of Japanese Thought (Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM13504, 科目ナンバリング：LJS-PHI617J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I
2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I
3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report.
5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
  - 1、ガイダンス
  - 2、研究発表 1
  - 3、研究発表 2
  - 4、研究発表 3
  - 5、研究発表 4
  - 6、研究発表 5
  - 7、研究発表 6
  - 8、研究発表 7
  - 9、研究発表 8
  - 10、研究発表 9
  - 11、研究発表 10
  - 12、研究発表 11
  - 13、研究発表 12
  - 14、研究発表 13
  - 15、研究発表 14
8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文） [100%]
9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』  
荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』  
『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか
10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅳ／ History of Japanese Thought (Advanced Seminar) IV

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23504, 科目ナンバリング：LJS-PHI618J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点 (出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文) [100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ぺりかん社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：